

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

道NIE推進協09年度総会

新規校決意新た

3教諭が実践報告

北海道NIE推進協議会（会長、山田家正・小樽商科大学名誉教授）の2009年度総会が5月23日、北海道新聞社で開かれた。本年度のNIE実践校に内定した、過去最多の55校が紹介され、本年度から新たにNIEに取り組み新規校のうち、出席した17校の教員たちが自己紹介、決意を述べた。また、小中高校の3教諭による実践発表があった。

総会には、全道からNIE実践校の教諭や教育、報道関係者ら約80人が出席した。来賓の北海道教育庁学校教育局高校教育課・小山茂樹主幹、札幌市教委学校教育部指導室・工藤真嗣指導主事、北海道NIE研究会・日下部憲一会長（札幌）をそれぞれあいさつした。続いて事務局から実践校55校（新規24校）の内定状況について報告があり、出席した新規校17校の校長、教頭、担当教員が自己紹介、決意を述べた。



2009年度 NIE推進協議会 総会

このあと、事務局から本年度の活動計画、予算、役員改選などが報告された。地区セミナーは本年度も開催された。新規校を代表し、あ

いさつする池田町高島中の駒澤嗣夫教諭（右から2人目）

路を皮切りに道内9地区で開催される。実践内定校は4月20日までで49校だったが、その後新たに6校増えた。過去最多で、全国道府県の中でも最も多い。本年度から新たに大学が対象となり、4大学が加わった。増えた6校は次の通り。

- 【財団認定】◇新規▽小学校 網走▽中学校 新得、函館・宇賀の浦、清水・御影【協議会認定】◇新規▽小学校 北見・小泉◇継続▽小学校 旭川・正和

平和考え意見文を投稿

志村知子教諭 =札幌平和小



昨年度から実践校になった。新聞が身近にあることで新聞を手取る機会が増え、子供たちの情報を選択する力が育っている。6年の総合学習では北京オリ

総会で実践発表した3教諭の新聞活用事例の要旨を紹介する。

ピック新聞づくり、国語では「平和」についての意見

中高一貫で活用力養う

吉川敦巳教諭 =登別明日中等教育学校



中学社会科から高校公民

文を書き、道新の投稿欄に送った。社会では5W1Hを意識して記事の内容をまとめさせた。いずれも社会象に関心を持たせる上で有効だった。本年度は各学年に新聞を使った学習の面白さを広げたい。

科を通じ、新聞を活用する学習に一貫して取り組んでいる。1年次（中1）では、地理分野の「身近な地域の学習」などの単元で学んだ経験を生かして、わがま都新聞コンクールの作品や都道府県新聞の制作に取り組

社説「縮約」読解力つく

菅原晃教諭 =江別高



前任の千歳高の現代社会、政治経済の授業で、社説を400字に縮約すると共に、自分の意見を述べる課題に取り組んだ。縮約は大

文を書かせたり、内容を要約させ、情報を取捨選択し「活用する力」を養っている。

野晋著「日本語練習帳」に紹介されている方法で、社説の要約ではなく、文章全体を順番通りにその言葉を使い、縮尺してまとめる。生徒たちの読解力・表現力を高める方策として、大変効果的な指導法だ。生徒たちの評価もおおむね高く、誰にでも無理なく行える実践の一つだと思ふ。

投稿通し学習意欲向上

釧路セミナー4教諭が成果発表

当協議会主催の第8回NIE釧路セミナーは6月20日、教員、教育関係者ら18人が参加し、北海道新聞釧路支社で開かれた。小中高の4教諭が道新の投稿欄「みらい君の広場」を使った学習意欲の向上やかべ新聞づくりなどについて実践報告した「写真」。

報告では、釧路市城山小の釜泡陽子教諭が、昨年度まで教壇に立っていた釧路



市鳥取小での取り組みを紹介。「4年の環境問題を扱う授業で投稿文を書かせた。掲載されたことで子供たちの新聞への関心、やる気が高まった。自己表現の一つとして、書くことを定着させることができた」と説明した。

新聞から学ぶ③新聞を活用するIをテーマに挙げ、4年間の事例を発表。「厚床小でも、道新の地域PR版を見本に厚床をPRする新聞づくりなどに取り組んでいる。子どもたちに自信を、学校や地域に誇りを持つて欲しい。新聞には子どもを変えようがある」と信じている。だからNIEの実践を勧めることができる」と強調した。

昨年度東地区かべ新聞コンクールで最優秀賞に輝いた厚岸町真龍中の飛鳥耕輔教諭は「新聞づくりの経験がない先生が多く、まず教員の研修から始めた。生徒たちは取材を通して人との接し方、話し方が向上、文章力が育った」と述べた。

NIE実践奮闘記

本校は、平成16年度から5年間、NIE実践校として活動してきた。振り返ると、試行錯誤を繰り返しながら、いろいろなことに取り組んできたという思いがある。

三觜 慈子



函館白百合学園
中学高等学校教諭

実践校に認定された時、教員数人でNIE委員会を立ち上げた。学校での全体的な取り組みは、この委員会を中心となり、私が委員長を引き受け企画・運営してきた。5年間続けてきた実践

放送朝礼で記事朗読

の1つとして、放送朝礼での新聞朗読がある。これは月2回程度、委員会の教員が交代で生徒に伝えたい新聞記事を選び、コメントを加えて放送し、その後放送局員の生徒が記事を朗読する。

17年度は、朝日新聞社主催の「オーサービジット」に応募、直木賞作家の角田光代さんに授業をしてもらった。角田さん

16年度には、北海道新聞社の移動編集車「ぶんぶん号」に来てもらい、記者の講演会を開くとともに、学校独自の新聞を発行するワークショップを実施した。また渡辺直樹教諭が高校3年SEコースの政治・経済で新聞

は作家にならなくても「読むことは、受け身の行為ではなく、読むことから創造が始まっている」と生徒に話してくれた。また道新の「高校生eyes」にアニメーション部の生徒の作品が掲載されたこともある。

18・19年度は、市根井恵子教諭が「MAIN CHIEF WE E K L Y」を使い、社会・時事問題を自分の問題として考える取り組みを英語の授業で実践した。

昨年度は、青木沢子教諭が、朝日新聞の記事をスクラップして「青木のきになるNEWS」として生徒に毎朝配布した。認定校が終わった本年度も「天声人語」を10日分ずつプリントして生徒に配るなど、教員たちは独自にさまざまな新聞活用に取り組んでいる。

今後もこれまでの蓄積を糧に学校全体の教育のレベルアップを目指して、新聞を教育に取り入れていこうと考えている。

11月20日に帯広で道NIE研究大会

NIEを推進する教員組織・北海道NIE研究会は本年度総会を5月23日、北海道新聞社で開き①第14回北海道NIE研究会大会帯広大会兼十勝新聞教育研究会の開催(11月20日、帯広市啓西小)②実践交流会(夏

白糠高の井山宗教諭は、現代文の授業で投稿を実践し「生徒たちに自分自身を考えさせる良い機会になった。掲載文が家族や地域の人たちに読まれることで、励みになり、書くことへの意欲向上につながっている」と効果を挙げた。

季研修会」開催(8月11日) ③同「冬季研修会」開催(1月12日) などの事業計画と予算を決め、役員を次の通り改選した。

◇会長 日下部憲一(札幌宮の森中) ◇副会長 上村尚生(札幌市立はまなす幼稚園) 逸見直和(同清田緑小) 坂田恵三(同新陵中) 一木一(同稲陵中) 毛利慎晴(札幌丘高) ◇幹事 齋藤拓也(札幌西小) 原努(同啓明中) 加藤一郎(同定山溪中) 高瀬敏樹(札幌旭丘高) ◇支部長▽道央 荒島晋(札幌向陵中)▽道南 深澤昌明(函館市神道南)▽道北 菊池安吉(旭山小)▽道東 野上泰川(音更町緑南中) ◇事務局 長 豊島義明(羊丘中)

北海道NIE推進協議会 09年度役員 (6月20日現在)

(敬称略)

- | | | |
|-----|--------|-------------------------------|
| 顧問 | 高橋 教一 | ・北海道教育委員会教育長 |
| 同 | 北原 敬文 | ・札幌市教育長 |
| 会長 | 山田 家正 | ・小樽商科大学名誉教授 |
| 副会長 | 小野寺敏光 | ・北海道教育庁学校教育局長 |
| 同 | 谷山 正司 | ・札幌市教育委員会学校教育部長 |
| 同 | 日下部 憲一 | ・北海道NIE研究会会長
(札幌市立宮の森中学校長) |
| 同 | 舟越 洋二 | ・十勝新聞教育研究会会長
(鹿追町立鹿追小学校長) |
| 同 | 岡田 実 | ・北海道新聞社取締役経営企画室長 |
| 幹事 | 三上 雅俊 | ・朝日新聞社北海道支社報道センター長 |
| 同 | 小笠原 伸 | ・読売新聞社北海道支社編集部次長 |
| 同 | 加納 洋人 | ・産経新聞社札幌支局長 |
| 同 | 黒田 正一 | ・北海道新聞社NIE推進センター長
(事務局長) |
| 監事 | 浅野 俊和 | ・時事通信社札幌支社長 |
| 同 | 末次 一郎 | ・十勝毎日新聞社札幌支社長 |

150年前の箱館にタイムスリップ

開港新聞使い、歴史学ぶ

箱館開港新聞で開港時の歴史を理解を深めた生徒たち。函館市五稜中2年B組

函館市五稜中の川端裕介教諭は、社会科学の授業で1859年(安政6年)当時にタイムスリップして取材・編集された「箱館開港新聞」を使っている。生徒たちが函館の歴史を再認識し、多面的に理解できるように学習内容を紹介する。
(小田原賢二・北海道新聞NIE推進センター委員)

開港新聞は、北海道新聞函館支社が今年7月1日、開港150周年を迎えるのを記念して昨年発刊した。記者が当時にタイムスリップして取材・編集した仮想新聞。基本的な事実関係は資料に基づくが、コメントなどは歴史的展開から想定して創作されている。見学した授業は、2年B組(31人)の単元「ヨーロッパ近代の成立とアジアの

函館・五稜中



教科書との違い認識

流れ」。8時間扱いで、見学は7時間目。5、6時間目での新聞を使って、開港時の様子を調べる学習を終えている。課題は「開港による箱館の変化のプラス面とマイナス面を新聞を使って考えよう」。8つのグループの代表が、黒板に張った開港新聞の記事に付せんを付け、プラスとマイナスの影響を

「多面的に理解できた」



さまざまな視点からの意見を調べ、ワークシートに記入して、発表した。続いて、グループごとに開港が「良かったか」「良くなかったか」を話し合った。全グループが「良かった」

今の函館はなかった」などを挙げた。これまで、日米修好通商条約に対する生徒たちの評価はプラス・マイナスほぼ半々だった。川端教諭は「函館に限ってみると、み

み」の24・7%を上回った。学校ぐるみの実践の方が定着率が高いことが明らかになっている。継続校にその要因を尋ねたところ「熱心な先生がいる」60・9%。「校内研修や公開授業を見て他の先生が実践するようになった」15・2%。他に「校長の指示で学校全体で取り組んでいる」などもあった。

日本新聞教育文化財団はNIE実践終了校に対する調査報告をまとめた。2003年度実践校のうち現在も継続している学校は4割弱で、NIE定着のためには、学校全体の取り組みが欠かせないと指摘している。

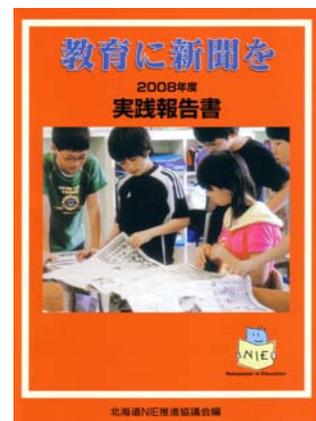
調査対象は、03年度実践校389校で、うち237校から回答を得た。実践形態では、1人の

学校ぐるみが定着の秘けつ

実践終了校調査

先生が取り組んだ学校が40・5%で最も多い。次いで26・6%が学校全体で取り組んだ。一方、4割弱の継続校では、03年度実践当時「学校全体で取り組んだ」が36・6%で、「先生1人の取り組み」が36・6%であった。

多彩な取り組み再現



08年度実践報告書発刊

北海道NIE推進協議会は5月下旬、2008年度の実践報告書「教育に新聞を」(第12集)「写真」を発刊した。昨年度NIE実践校に認定され、2-4カ月間新聞を無料提供された小中高専科学校46校の担当教諭らによる新聞活用授業の内容が掲載されている。リポートには、基礎学力を習得させ、学んだ知識・技能を発展させるための表現、発表、判断力を養うさまざまな取り組みが再現され、校内研修などの参考になる。A4判、253ページ。希望者に無料配布する。申し込みは当協議会事務局へ。

外部講師招き活用教室

全国紙の
取り組み ③

大学との連携、積極的に

毎日新聞のNIE活動は主に小中学校を対象とした「新聞活用実践教室」と「記者派遣」が二本柱だ。また、大学にも積極的に記者を派遣しているほか、NIEに取り組み海外の教師たちとの研修・交流会を開くなど、多彩な活動を展開している。

(毎日新聞北海道支社報道部長 渡辺雅春)

新聞活用実践教室は、本格的に実施して本年度で6年目になる。東京本社では今年5月で計65回目を数えた。

NIE実践校の教師や記者からの報告が中心だが、外部から講師を呼ぶ場合があるのも特徴だ。昨年は、新学習指導要領をテーマに文部科学省の前川喜平・大臣官房審議官による講演があった。

毎日新聞社

新聞活用実践教室は大阪、西部、中部、北海道の本支社でも随時、開かれて

いる。一方、記者派遣は制度化してから本年度で7年目。08年度は東京本社だけで小中高校などに計147人の記者を派遣した。

海外との交流では、韓国のへき地の小学校で、NIEに取り組み教師ら25人が、昨年東京本社を訪れた。韓国紙・朝鮮日報が主催した研修チームで、全国新聞教育研究協議会のメンバーらと交流した。

紙面では毎週月曜日に掲載される「新・教育の森」

韓国の教師らとも交流

などに記者を派遣している。昨年は根室管内羅臼町の全中高生約280人を対象に「知床半島と北方領土海域の生物と現状」と題して根室通信部の記者が羅臼

で3週間に1回のペースで「授業で新聞」を掲載。全国各地の教師たちのNIE活動の取り組みを紹介している。



「新聞ができるまで」を学ぶ札幌市立幌西小5年生たち＝08年10月、毎日新聞北海道支社で

高で講演した。また、札幌市立幌西小の5年生40人を北海道支社で受け入れ、新聞ができるまでを報道部のデスクが説明し、見学した。

大学とは本年度も青山学院大、昭和女子大、東京外語大で提携講座を開催。これとは別に今夏には、筑波大とタイアップし、教員免許更新講習にNIE講座を開設する。

編集後記

○…NIE実践校は過去最多の55校。当協議会としては、取り組む先生方の意欲に敬意を表したい。が、残念なのは実践1、2年でやめる学校が目立つこと。

○…理由は、担当教諭が「他校に異動」「担任から外れる」など。いずれも取り組む先生が1人しかいない学校で、その場合実践はどうしても定着しない。校内研修で実践者を増やし、学校ぐるみに広がると継続できるのだが。

○…函館白百合学園は5年間実践校を続けてくれた。校内にNIE委員会を立ち上げ、学校全体で取り組んでくれた結果である。三鶯慈子先生の実践奮闘記を読むと、その経緯がよくわかる。参考にしていただきたい。(小)

○…今号からレイアウトなどを担当する八重崎聖子です。道新編集本部での整理記者経験を生かし、読みやすい紙面づくりを心がけます。どうぞよろしくお祈りします。(八)

お知らせ

函館セミナー
7月3日開催

当協議会主催、渡島教育局、函館市教委後援の第8回NIE函館セミナーは7月3日(金)午後、函館白百合学園中学高等学校(山の手2丁目6の3)で開かれる。

午後0時30分開場。同1時15分から青木沢子教諭が

活動方針など決定

十勝新聞教育研

北海道十勝新聞教育研究会は4月21日、帯広市開西小で本年度総会を開き、活動方針として①第20回北海道十勝新聞教育研究大会兼第14回北海道NIE研究大会の開催(11月20日・帯広市啓西小)②第14回全十勝小中学生新聞スクラップコンクール開催③全十勝小中

学校学級・学校新聞コンクールの開催などを決め、役員を次の通り改選した。

- ▽会長 舟越洋二(鹿追町鹿追小)▽副会長 陰元正二(上土幌町上音更小)
- 堀光生(鹿追町鹿追中)竹中久美子(帯広市北栄小)
- 野上泰宏(音更町緑南中)
- 中村宏喜(清水町御影中)
- ▽事務局長 森田昌宏(帯広市清川中)